

2016 12/27

No.2033

毎月第2・第4火曜日発行

# 政経 かながわ

一般社団法人  
—神奈川政経懇話会—



三浦海岸(三浦市)の浜辺で、ダイコン干しがピークを迎えている。須原農園(同市南下浦町上宮田)では、海岸に設置した柵に青首ダイコンをつるして5日ほど乾燥させた後、10日ほど樽(たる)に漬け込む。シーズン中に7万~8万本の浅漬けのたくあんを生産する。



## contents

|  |    |
|--|----|
| 視点・点描  | 3  |
| バレー会場見直しの波紋                                    |    |
| 国際   | 4  |
| 「世界はどこに向かうのか」③<br>アジアの軍事バランス変化も<br>台湾カードで米中緊張か |    |
| 経済   | 6  |
| 米トランプ政権、いばらの4%成長<br>大規模減税と投資、効果に疑問             |    |
| 社会   | 8  |
| 増加する所有者不明の土地<br>放棄を認め積極的に管理を                   |    |
| くらし2016  | 10 |
| アルコール健康対策本格化へ                                  |    |
| 広告珍談   | 12 |
| 広告はたのしい⑩<br>光の源泉、マツダ！                          |    |
| NNAアジア経済リポート                                   | 13 |
| 神奈川景気データファイル                                   | 14 |
| 神奈川景気データファイル                                   | 15 |

### 事務局だより

#### ◇1月定例講演会

2017年1月18日(水)

午後1時30分～3時

ロイヤルホールヨコハマ5階  
「リビエラの間」

講師は元財務大臣の藤井裕久氏  
演題は「安倍政治のゆくえ」

# 視点



## バレー会場見直しの波紋

2020年東京五輪のバレー会場見直し問題がようやく決着した。経費削減を狙いに横浜アリーナ（港北区）＝写真＝の活用を求めた東京都の主張は退けられ、当初計画通り有明アリーナ（江東区）を新設することになった。横浜市にとっては、最後まで都の意向に振り回された格好だ。

五輪施設整備計画の見直しを進めていた都の調査チームは11月1

員会（IOC）や大会組織委員会、



日に提示した報告書で、整備費が400億円を超える見込みだった有明アリーナのコスト削減策に加え、横浜アリーナでの代替開催案を選択肢として提示した。大きなコストメリットに加え、新幹線の新横浜駅に近いなどアクセスに恵まれて世界大会の実績がある点などが評価された。

都の調査チームらが横浜アリーナや周辺道路などを視察した。横浜市の林文子市長も連例会見で「横浜が会場に決まればきちんと対応したい」と前向きな姿勢だった。だが、競技団体の日本バレー協会と国際バレー連盟が新設案を強く主張している中で、林市長は12月に入り「（横浜開催を）納得してもらうには時間が短い」と指摘。

横浜アリーナ開催は困難との認識を示した。スポーツ振興を進める小池百合子知事就任後、都が進めた競技会場見直しについては、黒岩祐治知事も「会場を決める権限があるのか」「あまりにも唐突」と不快感を示していた。この影響で、当初は9月に決定する予定だった各会場の整備費や役割分担がずれ込むなどの問題も起きた。都は先走ることなく、今後はIOCなどとの4者協議を最優先に対応することを望みたい。

（神奈川新聞社運動部長

佐藤 浩幸）

# 光の源泉、マツダ！

京都で、小学校も中学校も高校もいつしょだつた西垣守クンは、ナミヨンだナミゴだとむつかしいことをいう、科学少年であつた。

そんな彼を思いだして、『ツアラトウストラはかく語りき』を書きながら、書いている。

ツアラトウストラは、ゾロアスター教を開いたZoroasterのドイツ語読みという。

ゾロアスター教は、紀元前7世紀から6世紀のころ、予言者Zoroasterが創始した宗教のこと。善神のシンボルである太陽や星、そして火を崇拜。古代ペルシャの国教として、栄えた。中国には南北朝(5—6世紀)のころ伝来、拂火教と呼ばれた。

ゾロアスター教の最高の神さまは、アフラ・マズダという。アフ

ラは神、マズダは知恵とされる。

マズダはいつさいの善や正義や慈悲、秩序。そして、光の源泉という。

図をどうぞ。マツダ真空管の廣告。「大電力放送開始さる！ 優秀なる真空管によつて受信機を活せ！」とつづけて、1938(昭和13)年に掲出された。まことに注目度の高いレイアウト

と思うけど、背景の鉄骨

は何だろう。「大電力放送開始」の放送塔だろうか。

ラジオ放送の最初は1920年、アメリカのピツツバークで始まった。

日本では25年3月22日、東京工芸学校の図書室から放送。7月22日、東京

愛宕山から本放送を開始した。日本放送協会(N

HK)の前身である。  
ラジオのもつとも簡単な受信機

は鉱石ラジオ。真空管が開発され、

ラジオはいつきに発達した。真空

管は、内部を高度に真空にして、

電極を封入したガラスの管球。西

垣クンがいう、ナミヨンとかナミ

ゴは、真空管の本数らしい。トラ

ンジスタやICなど、半導体が登

場する以前、大活躍した。もつと

も音響マニアは、真空管でなけれ

ば満足しないという。



空とはなにかと人びとに示した。

ゾロアスター教は7世紀、イスラム教の興隆でいつきにおどろえたという。

(美術エッセイスト茅ヶ崎市在住)

(図)マツダ真空管の広告。1938(昭和13)年掲出。

「真空」について、17世紀中ごろ、こんなことがあった。

ドイツのマクデブルク市長・ゲーリケは、物理学者であった。

1654年のある日、金属製の大

きな2個の半球をつくった。その

ふたつを密着させて、ポンプで中

の空気を抜いた。そして、8頭の

ウマ2組で、両側から引っ張らせ

たが、びくとも動かない。引き離

すことことができなかつた。「マクデブルグの半球」と呼ばれるが、気

圧の大きさを教え、真